



愛研技術通信

掲 示 板

エコアクション21 環境活動レポート

弊社は、これまで愛知県のCO₂削減マニフェスト登録事業所、名古屋市のエコ事業所として環境に関する取り組みを行ってきましたが、さらに平成26年度から「エコアクション21」の取り組みを行っています。

弊社のエコアクション21の取り組みを年度ごとに取りまとめた「エコアクション21環境活動レポート」を4月27日に発行しました。弊社ホームページに掲載しておりますので、ご参照ください。

法令・告示・通知・最新記事・その他

○（お知らせ）2014年度（平成26年度）の温室効果ガス排出量（確報値）について 平成28年4月15日環境省報道発表資料抜粋

気候変動に関する国際連合枠組条約（以下「条約」という。）第4条及び第12条並びに関連する締約国会議の決定に基づき、我が国を含む附属書I国（いわゆる先進国）は、温室効果ガスの排出・吸収量等の目録を作成し、条約事務局に提出することとされています。また、条約の国内措置を定めた地球温暖化対策の推進に関する法律第7条において、政府は、毎年、我が国における温室効果ガスの排出量及び吸収量を算定し、公表することとされています。

これらの規定に基づき、2014年度（平成26年度）の温室効果ガス排出量等を算定しました。

2014年度の我が国の温室効果ガスの総排出量は、13億6,400万トン（CO₂換算。以下同じ。）でした。

前年度の総排出量（14億800万トン）と比べると、電力消費量の減少（省エネ、気候の状況等）や電力の排出原単位の改善（再生可能エネルギーの導入拡大、火力発電内の燃料転換・高効率化等）に伴う電力由来のCO₂排出量の減少により、エネルギー起源のCO₂排出量が減少したことなどから、3.1%（4,400万トン）減少しました。

2005年度の総排出量（13億9,700万トン）と比べると、オゾン層破壊物質からの代替に伴い、冷媒分野においてハイドロフルオロカーボン類（HFCs）の排出量が増加した一方で、産業部門や運輸部門における

エネルギー起源のCO₂排出量が減少したことなどから、2.4% (3,300万トン) 減少しました。

なお、2014年度の京都議定書に基づく吸収源活動による吸収量は、5,790万トン（森林吸収源対策により4,990万トン、農地管理・牧草地管理・都市緑化活動により800万トン）でした。

○（特集）国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）について

環境省地球環境局資料から抜粋

4月22日、ニューヨークの国連本部において、国連事務総長等の主催により、昨年末のCOP21（国連気候変動枠組条約第21回締約国会議）で2020年以降の気候変動に係る国際枠組みとして採択されたパリ協定のハイレベル署名式が行われ、175か国の代表が署名しました。米国务長官のジョン・ケリー氏（John Kerry）が孫娘イザベルちゃん（2）を抱いて登壇し、協定に署名する様子をテレビ等でご覧になった方もいると思います。

本号では、パリ協定について紹介をしたいと思います。

1992年に世界は、国連の下、大気中の温室効果ガスの濃度を安定化させることを究極の目標とする「気候変動に関する国際連合枠組条約（United Nations Framework Convention on Climate Change）」を採択し、地球温暖化対策に世界全体で取り組んでいくことに合意しました。同条約に基づき、1995年から毎年、気候変動枠組条約締約国会議（COP）が開催されています。1997年に京都で開催された気候変動枠組条約第3回締約国会議（COP3）では、先進国の拘束力のある削減目標（2008年～2012年の5年間で1990年に比べて日本－6%、米国－7%、EU－8%等）を明確に規定した「京都議定書」（Kyoto Protocol）に合意することに成功し、世界全体での温室効果ガス排出削減の大きな一歩を踏み出しました。

「パリ協定」（Paris Agreement）は「京都議定書」に代わる、2020年以降の温室効果ガス排出削減等のための新たな国際枠組みです。歴史上はじめて、すべての国が参加する公平な合意と言われています。合意の背景には二大排出国の米中が積極的な姿勢を示したこと、議長国のフランスが適切な采配をしたこと等があげられますが、参加国の気候変動の脅威に対する危機感（ここを逃すと後がない、との政治的危機感）が強かったと言われています。

パリ協定には、以下の要素が盛り込まれました。

- ・世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求すること。
- ・主要排出国を含むすべての国が削減目標を5年ごとに提出・更新すること。
- ・二国間クレジット制度（JCM）も含めた市場メカニズムの活用を位置付けたこと。
- ・適応の長期目標の設定、各国の適応計画プロセスや行動の実施、適応報告書の提出と定期的更新を行うこと。
- ・先進国が資金の提供を継続するだけでなく、途上国も自主的に資金を提供すること。
- ・すべての国が共通かつ柔軟な方法で実施状況を報告し、レビューを受けること。
- ・5年ごとに世界全体の実施状況を確認する仕組み（グローバル・ストックテイク）を作ること。

今後は協定の迅速な批准と2020年以前の施行が主な課題となります。パリ協定は、世界全体の温室効果ガスの55%を排出する55か国が条約に批准した時点で施行されます。

日本政府は、パリ協定を踏まえた今後の対策の取組方針を2015年12月22日に決定しました。この中で、国内対策として、パリ協定の2℃目標等を踏まえ、我が国としても世界規模での排出削減に向けて長期的、戦略的に貢献すること、COP21に先立ち国際的に約束した目標（約束草案）の着実な実施に向けてこの春までに地球温暖化対策計画を策定することと政府実行計画を策定すること、政府が旗振り役となり国民運動を強化すること、更にパリ協定の署名・締結・実施に向けた取組を進めること等を決定しました。

新入社員紹介

今年度、新たに社員を4名迎え、全員が測定分析部に配属となりました。今号ではその新入社員の自己紹介と入社1ヵ月を過ぎてどう感じたのか、これからの抱負も合わせどう取り組んでいくのか、その意気を記していただきました。

坂口優哉

高卒で入社させていただきました坂口です。私の母校は名南工業高校です。母校では化学の基礎的なことを学んできました。早く会社に慣れていち早く業務をこなしていきたいと考えております。

中学・高校で6年間剣道をしていたので体力には自信があります。他にも計算技術検定3級・技能検定3級化学分析等の資格を持っているため、これらの資格を今後の業務に役立てたいと考えています。

性格面では人見知りなところがありますので、これから時間をかけて少しずつ直していこうかなと思っております。そして、真面目で少し細かく神経質な部分もあるので迷惑をかけることもあります。よろしくお願いします。趣味は読書や音楽鑑賞です。

社会人になってこれからの目標は分析や機器類の概要を覚えること、学生気分から抜け出し早く大人になることです。目標を達成するには業務をたくさんこなすことが必要と考えております。会社の一員として業務内容を覚え、こなし、会社に貢献できる人材になろうと思っております。社内の方にはたくさんご迷惑をかけると思いますが、仕事ができるように成長していきますのでこれからよろしくお願いします。

荒木優

この4月でパートタイマーから正社員になりました荒木と申します。今までとは立場が変わり、これまでに以上に責任も増え、学ぶことばかりだと思います。パートタイマーでの少ない経験を活かし、気を引き締め直してこれからは社員としての自覚をもって従事していきたいと思っております。

以前、私は自動車塗装の仕事に就いておりました。その現場では塗料等の有機溶剤の有害性や、作業環境管理の重要性をこの身をもって知ることができました。これからは作業環境測定に携わる立場として、作業環境の改善であったり、働く人の健康障害の防止に少しでも役立てるように頑張ります。

作業環境測定の他にも水質や大気など、愛研の事業内容は幅広く、安全な環境づくりのためにも日々、勉強に努めたいと思っております。測定分析の技術的・専門的な能力や法令についての正しい知識を学び、それらを日頃の仕事で適用できる力を身に付け、会社に貢献していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

池本真希

はじめまして。今年の4月に入社しました、池本真希と申します。兵庫県出身で、岡山理科大学理学部動物学科を卒業し、岡山理科大学大学院理学研究科動物学専攻を修了しました。

大学・大学院では、草食性小型哺乳類における餌資源利用戦略をテーマとして研究を行いました。草食性哺乳類は、消化管内の共生微生物が大量の草を発酵分解するために、大きな発酵槽をもっています。そのため、草食性哺乳類には大型の動物が多く知られています。しかし、ハタネズミという草食性の小型のネズミがいます。そこで私は、ハタネズミはどのようにして小型でありながらも草食性として適応できたのか、ということの研究しました。ハタネズミの消化管の組織形態の観察や、微生物が草を発酵分解して産生した成分（揮発性脂肪酸や乳酸）の分析、微生物叢の解析、そして揮発性脂肪酸や乳酸を消化管組織内に取り込む役割をもつタンパクのmRNA発現解析といった様々な分野から調べました。

私の趣味は、ピアノや切り絵、散歩です。最近では周辺散策もかねて散歩をすることが多いです。休みの日には3・4時間ほど歩いていたりしています。

入社して1ヶ月が経過しますが、まだまだ不慣れな点が多く、ご迷惑をおかけするかと思っております。できる限り早くお力になれるよう、努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

小林央知

このたび4月から入社することになりました小林央知と申します。名城大学理工学部環境創造学科を卒業しました。私の性格は几帳面で心配性です。慣れない仕事を行うときなど特に仕事速度が遅くなってしまふことがあります。ですが慣れてきた仕事でも簡単な失敗がないか心配し、確認は怠らないように心掛けています。

大学では、環境創造学科大気分野の研究室に所属していました。最初は九州地方におけるPM2.5の濃度について研究していました。中国大陸からのゆそう飛来等により九州地方はPM2.5の濃度が高くなっています、そこで実際にどれほど高いのか自ら測定しようとしていましたが濃度が高いのは周知の事実であり、少々つまらないのではないかと途中で研究内容を変えて「保水性舗装におけるヒートアイランド現象の緩和効果」という内容でヒートアイランド現象について研究しました。保水性舗装とは、一般のアスファルト舗装より水分をためておける素材を使用した舗装のことを言います。保水性ブロックに一定量の水分をかけて、ブロックの表面温度と水分量を計測するという繰り返し作業を夏から冬まで行っていました。水分の持続性、持続効果のあるブロックの色等過去の研究にないことが判明し、長い時間をかけて行った研究が教授に認めていただけたことが大学生活で一番の思い出となりました。

卒業研究を終えて、やればやっただけの結果が出ると感じました。今は、まず目の前の課題を1つずつ取り組んで参りたいと思います。まだわからないことばかりで皆様にご迷惑をおかけすることが多々あるかと思いますが1日でも早く仕事を覚え頑張っていきますので、ご指導のほどよろしくお願い致します。

編集後記

まだ社風に染まる前、何か馴染んでいない感じ、そんな新入社員を迎えただけでベテランの心も透くようなこの時期が私の好きな時期です。彼らが、「愛研に入って良かった」と思えるような会社でありたいと思います。

さて、この4月に発生した熊本地震、津波の影響を受けていないまでも家屋の倒壊、インフラの損壊等の程度は東日本大震災を上回るとも言われています。被災された方には心よりお見舞い申し上げます。

先日、弊社が加盟する愛知県特定計量証明事業協会の総会において、様々な視点からの災害リスクに関する講話を頂きました。更に、受講された方の感想の中で「実際にリスク管理体制について理解はしているものの、震度2程度の地震でもいざその時になると動けなかった」というお話も印象深く、実際に避難行動ができる状態まで訓練しておかなければ机上の管理で済んでしまいます。

御嶽山噴火など東海地方でも地殻の活動は活発になってきていることから東海地震は遠くない将来必ず訪れ、一度大きな災害を被ってしまうとその後の生活も一変します。被災された方の体験を無駄にしないためにも、防災意識を高く持つことは重要です。また、被災する前のこの1日、1日を大切に過ごすことも広い意味でのリスク管理とも言えると思うのです。(T.H)



株式会社 愛研

(<http://www.ai-ken.co.jp>)

本社 〒463-0037 名古屋市守山区天子田 2-710

電話(052)771-2717 FAX(052)771-2641

半田営業所 〒475-0088 半田市花田町 2-65

電話(0569)28-4738 FAX(0569)28-4749